

『道化師』第二稿

12250020 神田愛花里

○登場人物

神谷あいり(クララ)・・・21歳。主人公。突拍子もないことをしだす性格。自分のことを道化師のようだと思っている。躁鬱病。

赤木るか(マゼン)・・・20歳。あいりの道しるべ的存在。冷静で、ものごとを客観的に見れる。

村上はるき・・・21歳。あいりの元カレ。もう次の恋愛をしている。あいりとは毒づき合う友達。

池田しんたろう・・・20歳。あいりの彼氏。元々彼でもある。あいりの病気に理解がある。

仁村かいと・・・20歳。池田しんたろうの友達。あいりの相談相手。

三滝みゆう(みっちゃん)・・・20歳。あいりのバイト先の同期。あいりの話を楽しそうに聞いてくれる。

花巻ゆうき(まっきーさん)・・・25歳。みっちゃんの彼氏。医学部志望なので、あいりの主治医的存在。

えな(中井ゆうか)・・・20歳。進学の関係で東京に住んでいる。会にはオンライン参加。ストーリーテラーのような存在。

■山荘・パーティー会場

長い髪をまとめたマゼン(20)、会場の扉を開けて入ってくる。

会場には誰もいない。一番乗りだ。

会場には、テーブルが設置されている。

誕生日席には、ケーキが入ってあるだろうハコが置いてある。

奥から紫のパーティードレスを着たあいり(21)が出迎える。

あいり「やつほー。来てくれてありがとう！マゼンのことやから、なんで神谷の誕生日祝わなあかんねんとか言うかと思っ
た」

薄手のコートを脱ぐマゼン。

マゼン、黒のパーティードレスを身に纏っている。

マゼン「どんな薄情者やと思ってるんねん」

まだ一つも服がかかっていないハンガーラック。

マゼン、ハンガーラックにコートをかける。

あいり「確かに私が入院する前も毎夜来てくれてたもんね」

マゼン「それはー、夜は時間があつたから」

あいり「まあそっか！今日も空いてたの奇跡ってくらい忙しいもんね夜以外は」

マゼン「呼ばれたから来たけど。結局誰が来てるの？」

あいり「入院中にお世話になった人たちを呼んでる！」

マゼン「本当に色んな人に頼りっぱなしだったもんね。知らない人多くて緊張するわ」

あいり「絶対今日で仲良くなれるから！」

マゼン「また突拍子もないこと言って・・・」

■総合病院・病室(回想)

暇を持て余したあいり、ベッドからマゼンに電話をかける。

発信音。

マゼン、電話に出る。

マゼンの声「もしもし？」

あいら「私この病院出るから！」

マゼンの声「どうした急に」

あいら「私はここにいるべきではない！」

あいら、おもむろにカップラーメンを食べだす。

マゼンの声「落ち着いて。何が起きたの？」

あいら「このラーメン食べて力つけたら走って逃げるから！」

あいら、ラーメンを食べ終わる。

あいらがダウンを着てポケットに財布とスマホを

入れる。

病室を飛び出すあいら。

■同・病棟（回想）

あいら、スマホを手にしたまま病棟の非常階段を駆け降りる。

異変に気付いた看護師があいらを追いかける。

マゼンの声「クララ今何してる？」

あいら「逃げてるー！」

看護師と一定の距離を保ち走るあいら。

■同・表（回想）

あいら、病院の外まで出る。

看護師「待ちなさい！」

看護師につかまるあいら。

あいら「やめて！」

あいら、泣きわめく。

十数名の看護師がやってくる。

あいら「おまえらは全部上のいいなりだ！」

看護師たち、ストレッチャーにあいらを乗せる。

■同・医務室（回想）

医者があいらりの腕に鎮静剤を打つ。
ブラックアウト。

■救急車・車内(回想)

あいらりが運ばれている。

■精神病院・病室(回想)

部屋の中にトイレがある監獄のような病室。

あいらり、ナースコールを押す。

看護師がやってくる。

あいらり「ここどこですか」

看護師「ここは、星南病院。精神病院ですよ。神谷さんは双極性

障害と診断されていますね」

あいらり「双極性障害って躁鬱ですよ。まつきーさんに言われた

通りだ！」

■山荘・パーティー会場

あいらり「あ、エナに電話しよう」

高校時代の友人、エナ(20)にスマホで電話をかけるあいらり。

マゼン「相変らず急やな」

エナが電話に出る。

あいらり「エナー？やっほー！」

×

×

×

エナの部屋。

エナ、ドレスを身にまといスマホを手に

エナ「あ、クララー？そっちどんな感じー？」

×

×

×

あいらり「いまはまだ丁度マゼンが来たところ！」

マゼン、スマホを持つあいらりの手を自分に近づける。

マゼン「もしもしエナびー？」

エナの声「はい」

マゼン「今日ってずっと繋いどくん？」

エナの声「クララがいいならそうしたい！」

マゼン「じゃあこのスマホ私が預かるところか？クララは準備とかで忙しいやろうし」

あいら「いいよ。そうしよう」

あいら、マゼンにスマホを渡す。

エナの声「どんな会場なの？見たい！」

マゼン「おっけー散策しようか」

会場のドアが開く。

あいらと付き合っている池田しんたろう（しん）が入ってくる。

続いてあいらとしんの友人、仁村が入ってくる。

しんと仁村、スーツを身に纏っている。

エナの声「誰か来たのー？」

マゼン「仁村と池田」

エナの声「えー高校卒業式ぶりだあ」

あいら、仁村としんを迎え入れる。

あいら「わー！来てくれてありがとう！しんとはケーキ入刀もあるからね！」

しん「まじか、あいらだけじゃなくて俺もそんなんあるんや」

仁村「本人聞いてないんかい」

仁村としんがコートを脱ぐ。

■総合病院・病室・ベッド（回想）

あいら、酸素の測定器を中指に着けている。

あいらが仁村にスマホで電話をかける。

仁村、電話に出る。

仁村の声「もしもし」

あいら「あ、もしもし？今大丈夫？」

仁村の声「誰かと思った。今まで電話とかかけてきたことなかったやん。どーした急に」

あいり「いや今入院してるんやけど、人生を振り返ってたら仁村に行きついた」

仁村の声「俺そんな重要人物か？」

あいり「しんに行き着くために仁村を経由するしかなかったんよ。

特急じゃなくて各駅停車乗らんとあかん的な」

仁村の声「ちょっと何言ってるかわからん」

あいり「元カレのしんにいきなり連絡すんのは忍びないから、しんと仲いい仁村と先に話そーって思っ

仁村の声「なるほどな。まず入院って大丈夫なん」

あいり「入院はー」

■山荘・パーティー会場

あいり「仁村も来てくれてありがとね。しんと一緒に楽しんでー」

会場のドアが開く。

バイト先の友人三滝(20)と、バイト先の先輩であり三滝の恋人でもある花巻(25)が入ってくる。

池田、仁村、席に座る。

マゼン、あいりのもとに戻ってくる。

あいり「お二人もいらっしやーい！バイト早く上がった？」

三滝「あいりー！」

花巻「うん、バイトはいい感じに朝食メンバーやったから早よあがれたな。神谷ちゃん、いつもと雰囲気ちがうね」

あいり「え、ありがとうございます！みっちゃんもそう思う？」

三滝「うん、紫似合う！」

あいり「やったありがとう！あと五分とかではじめるし、席座ってて」

三滝、花巻、席に座る。

スマホ画面の中のエナが語りかける。

エナ「クララ(あいり)ってさ、道化師みたい」

あいり「え、なんで？」

エナ「人によってクララとか神谷ちゃんとかあいりとか呼び方色々あるやん？」

あいり「それぞれで演じてるみたい？」

エナ「んー、演じてるってより、属するコミュニティによって使
いわけてるというか、呼ばれ方もたくさんあるやん？それ
ぞれの呼ばれ方に人格があるというか・・・」
クララ「なんかわかるかも！私って道化師やったんや！」

タイトル『道化師』

マゼン「軽率すぎねそれは」

エナ「うん(笑)」

あいり「えー！私的にはめっちゃしっくりきたんやけどー。

てか、高校の頃に“ずっと演じてるよな。”って言われ
たことあるもん」

エナ「けど、八方美人ってわけではないから安心して」

あいり「ありがとう！誕生日に自己分析出来て幸せ！」

マゼン「楽天的で何よりやわ」

×

×

×

マゼン、席に着く。

気づけば全員が着席している。

それに気づいたあいり、お誕生日席に向かう。

ワイヤレスマイクを手取るあいり。

あいり「みなさん、よくぞお越しいただきました」

花巻「ヒュー」

右手を握って高く上げる花巻。

あいり「まつきーさん、ありがとうございます！みんなも盛り上

がってこう！ご馳走を用意したのでたくさん食べてく

ださいねー」

花巻「神谷ちゃんセンスいいね全部美味しそう」

会場のドアが開く。

三か月前まであいりと付き合っていた村上はるき
が入ってくる。

あいり「あれ、はる来てくれたんだ。来ないかと思って席取っち
ゃったごめん」

はるき「いいよ。てかマイク越して言わないで恥ずかしい」

マイクを下げるあいり。

あいり、椅子を取りに行く。

あいり「ごめんごめん。こーゆーところが嫌で別れたんよな。

お気持ち分かります」

椅子を持ってくるあいり。

はるき「もういいよ。お互い別の恋人いるんだし。あいり変わってないな」

あいり「それもそうか。変わらず元気にやっています」

椅子を差し出し、お誕生日席に戻っていく。

はるき、隣の花巻に会釈し、席に座る。

あいり「乾杯用にビールとオレンジジュース用意してるので、それそれ好きなほう注いでくださいーい」

花巻「はるさん、ビールいけます？」

花巻、瓶ビールを持ってはるきのグラスに注ごうとする。

はるき「あ、ありがとうございます」

グラスを持ち、ビールを注がれるはるき。

三滝、自分でオレンジジュースを注いでいる。

花巻、瓶ビールの残りを自分に注ぐ。

池田、仁村、自分のグラスにビールを注ぐ。

マゼン、オレンジの入ったピッチャーを持つ。

仁村「赤木(マゼン)もビールいる？」

瓶ビールを進める仁村。

マゼン「あ、いただきますー」

オレンジのピッチャーを置くマゼン。

仁村「あ、ビール苦手やった？」

マゼン「いや、勧められたら全然飲むし大丈夫。乾杯だけビールにしよかな」

仁村「ならよかった」

ビールを掲げ、マイクを持つあいり。

あいり「ではみなさん、グラスを手にお持ちください」

全員グラスを持つ。

あいり「かんぱーい」

一同「かんぱーい」

あいらり「Mrs GREEN APPLE の『CHEERS』を流す。

あいらり「ご飯も自由に取ってくださいねー」

花巻「わーい」

ノールックで料理を取り分け出す花巻。

つられるように、料理を取り出す一同。

あいらり「しん、ちょっと来てー」

しん、席を立ちあいらりのもとへ行く。

あいらり「ケーキ箱から出すの手伝ってほしい」

しん「あぁいいよ」

箱を開ける池田。

しん「え、これ何・・・？」

誕生日ケーキの上のプレートに『あいらりを殺す』と

書いてある。

あいらり「なにこれ・・・」

はるき「どーした？」

はるき、席を立って見に来る。

はるき「あいらりを殺す・・・？殺害予告じゃんこれ」

おもむろにマイクを取るあいらり。

あいらり「私、殺害予告されちゃいましたー」

仁村「まじで？どういうこと？」

仁村が席を立ち、未だ混乱中の池田のもとへ来る。

エナの声「え、なんか殺害予告って聞こえたけど、大丈夫そう？」

マゼン「いや、どーなんやろ。神谷のことやからガチなんかよく

わからん」

席を立ち、神谷のもとへ歩いていくマゼン。

三滝「ゆうちゃん、私たちも見に行こ？」

三滝、花巻に話しかける。

花巻「これだけ食べさせて」

花巻、ハンバーグを頬張り、席を立つ。

一同、お誕生日席に集まっている。

はるき「とりあえず出すね」

ケーキを箱から出すはるき。

あいらり「私がここまで持ってきたときは“あいらり21歳おめでと

う“だったから・・・”

マゼン「いや、自分で自分の誕生日ケーキもってきたんかい」

一同、笑う。

あいり「いや、ケーキ持ってきたのも、しんとケーキ入刀したくて」

しん「でもこれ、そんなめでたいことしてる場合じゃないよな」

池田しんたろう、神妙な面持ちで言う。

はるき「池田君がやったんじゃないの？」

しん「いや、俺なわけではないですよ。だって今あいりと付き合ってるの俺だし、死んでほしくないし」

はるき「いや、付き合ってるからこそいろんなしがらみがあるんじゃないの」

マゼン「ちょっと一回整理させて。しんとはもともと高校の頃に付き合ってた、別れてはるさんと付き合ってた、はるさんと別れてしんと復縁したってことよな」

しん「そうそう」

はるき「そうなるね」

三滝「関係ややこしっ」

花巻、ハンバークを頬張っている。

あいり「確かにしんは今日、私と一緒に家出てケーキ受けとったっけ」

しん「いや俺が会場にケーキ設置したときはプレートは誕生日おめでとうのままだったはず」

あいり「設置した時にプレートの確認なんてしてなくない？」

しん「けど俺はケーキ設置までプレートを変える隙なんて無かった」

あいり「それはそうか」

マゼン「私が会場一番乗りだと思ってたけど、池田が最初やったんか」

しん「俺はあいりと会場に入ってきたあと、仁村迎えに行ってきたから」

三滝「結局、池田君がやってないこと証明されてくない？」

しん「いや、はるさんこそ別れた彼女であるあいりに恨みを持つてるとかじゃないんですか」

はるき「いや、あいりには俺を成長させてくれた恩を感じてるし、今じゃ心の許せて何でも言い合える友達だし」

あいり「悪口言い合ったりするぐらい何でも言えるよね」

しん「え？」

あいり「どうした？」

しん「いやさ、あいりってスマホのパスコード俺に教えてるじゃん？はるきさんのトーク見てたのよ」

あいり「うん、別にいいけど」

マゼン「うわー私スマホ見せるとか絶対無理」

はるき「俺の時もそんな感じやったよなあいり。で？」

しん「悪口言い合ってて、死ぬよ(笑)とかあったから、そのノリやけどほんとにイラついてプレートにも書いたのかと」

仁村、挙手する。

仁村「俺から言わせてもらうと、しんたろうは神谷のこと本当に好きで、恨みってより愚痴一つ聞いたことない。それと、そんな神谷と付き合ってたはるきさんも、形は違えど神谷を大事にしてると思う」

はるき「あいりのことは大事に思ってるし、あいりが大事にしてる池田君も大事にするべきだったな。ごめん」

はるき、池田に向かって手を差し出す。

はるき、池田、握手する。

あいり、目をキラキラさせている

あいり「仲良くなならないはずの二人が仲良くなった！？ねえ嬉しいんだけど」

マゼン「はいはい、よかったね。ただ何も解決してないで」

あいり「そーだった！他にメッセージ書き換えれそうなのはー」
周りを見渡すあいり。

マゼン「そういえば、はるきさんを待ってる間、花巻さん以外夕日見に外出なかったっけ」

あいり「ほんとだ！その間にメッセージ変えられるじゃん」

花巻「俺やってないよ。夕日撮ろうとカメラ取りに行ってただけ」

三滝「ゆうちゃんがそんなことする動機ないよ」

仁村「彼氏だからかばってるんじゃない？」

あいり「まつきーさんなら面白半分で犯行及んでもおかしくない」

はるき「そーいや俺と付き合ってたあいらりが体調不良になった時、

花巻さんが俺より早くあいらりのもとに駆け付けたこと

あったよな」

しん「それに嫉妬した三滝さんの犯行ってのもあり得る？」

仁村「夕日見てるとき、花巻さんと入れ違いで三滝さん会場に

戻ってなかったっけ」

三滝「お手洗い行ってただけ」

仁村「それはどうとでも言えるしなあ」

花巻「みゆうは俺のこと好きすぎて暴走するときあるよな」

三滝「ゆうちゃんも敵なの!？」

花巻「いや、みゆうはこんなことやらないって信じてるよ」

三滝「そもそもあいらりのこと信用してるから嫉妬とかなかったよ。

私も体調心配してたし。そこで駆け付けられるゆうちゃんが
が誇りだった」

花巻「俺もちろん神谷ちゃん(あいらり)のことを好きとかではな

く、単純に人助けとして駆け付けただけだし、今回のメ

ッセージも俺じゃない」

あいらり「二人も違うかあ。でも二人の気持ち聞けて嬉しい」

マゼン「殺害予告受けてる緊張感ないな」

三滝「そういうマゼンちゃんこそ犯人の可能性あるんじゃない？」

しん「俺とあいらりが会場についてその次に来たのが赤木だったか
ら、あいらりが目離れた際にプレート変えることくらいでき

ちゃうな」

マゼン「ここで私疑われるんだ。じゃあ動機は？」

三滝「高校の頃はあいらりと険悪だったんでしょ」

スマホ画面の中のエナが話始める。

エナ「その話この間三人でしたよね。クララ(あいらり)がマゼンの
こと苦手だったって話」

マゼン「高校の頃は余裕なくて神谷に当たっちゃってたからな」

あいらり「あの頃は実際ほんとにしんどかった」

マゼン「けど大学生なってからは捌け口が他にできて関係良好よ
な」

あいらり「うん、マゼンは私にそこまで興味ないから殺すとかにも
ならなそうだし違うか」

マゼン「どんだけ淡泊だと思われてるん私」

三滝「あいらがそう言うなら違うのか。ごめん疑って」

三滝、マゼンに手を差し出す。

マゼン、三滝と握手する。

二人を見て満足そうなあいら。

はるき「いよいよ誰が犯人かわからなくなってきたな。一旦テ-

ブルに集まって色々整理するか」

しん「そうしましょう。料理も冷えちゃう前に食べたほうがいい」

一同、席に着く。

あいら、ベランダに向かう。

■同・ベランダ

あいら「殺される前に死ねばいいんだ！」

ベランダに出るあいら。

あいら、柵をのぼろうとしている。

三滝「あいら！何やってるの！」

三滝、走ってくる。

あいらを抱きかかえて止める三滝。

あいら「みっちゃんやめて！ここから飛び降りるの！」

全員ベランダに駆け付ける。

しん、三滝と一緒にあいらを止める。

あいらが泣き叫ぶ。

あいら「なんで私が死にたいときに死なせてくれないの！」

しん「みんなあいらに死んでほしくないからだよ！」

あいら「マゼン！？私っていつ死んでもいいんだよね！？」

マゼン「落ち着いて。神谷は死にたいときに死んだらいいんだよ」

あいら「落ち着く。そうだよ。いつ死んでもいいなら今じゃな

いか。種明かしもまだしてないし」

柵から手を放すあいら。

はるき「種明かし？」

あいら「殺害予告プレート、私がやったんだよね」

三滝「え？」

あいら「けど、だんだん本当に殺害予告受けた気になって死にたくなっちゃった」

しん「勘弁してくれよ」

仁村「真剣に犯人探してた俺たち滑稽じゃねえか」

あいり「あのね」

あいりの言葉に耳を傾ける一同。

あいり「人間って意外と死と隣り合わせだと思うの。明日誰かが死んでもおかしくないって。さっき飛び降りようとしたときは死が近くに居ただけど、ちょっと離れてみたらみんなで止めてくれたことに感謝しかない。ありがとう。私も頑張って生きるからみんなも生きててね」

マゼン「冷静になってくれてよかったよ。けどなんでこんなことしたん」

あいり「今日は、私が入院してた時にお世話になった人を集めたんだけど、初めましての人も多いじゃん？だから仲良くなっほしくて」

はるき「たしかにしん君とは誤解が溶けて仲良くなったかもなしん「それはありますね」

三滝「私もマゼンちゃんと打ち解けた気がする。ありがとう」

三滝、マゼンの方を向く。

マゼン「こちらこそありがとう」

花巻「これは神谷ちゃんに一杯食わされたなあ」

三滝「まさかだけど、あいりが殺されないなら良かった」

マイクを手取るあいり。

あいり「皆さん席にご着席ください」

それぞれ席に着く。

あいり「これであいりのショーはおしまいです。パーティーの続きを楽しみましょう！」

(終わり)